

NetBackup™ リリースノート

リリース 10.5

マニュアルバージョン 2

NetBackup™ リリースノート

最終更新日: 2024-11-06

法的通知と登録商標

Copyright © 2024 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Veritas Alta、NetBackup は、Veritas Technologies LLC または関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティ製ソフトウェア（「サードパーティ製プログラム」）が含まれる場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このVeritas製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所から入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のまま提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、Veritasがオンプレミスまたはホスト型サービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19 「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202 「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」、およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
2625 Augustine Drive
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートはグローバルにサポートセンターを管理しています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と現在のエンタープライズテクニカルサポートポリシーに応じて提供されます。サ

ポート内容およびテクニカルサポートの利用方法に関する情報については、次の **Web** サイトにアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/support>

次の URL で **Veritas Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

現在のサポート契約についてご不明な点がある場合は、次に示すお住まいの地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、**Veritas** の **Web** サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.docs@veritas.com

次の **Veritas** コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問したりすることもできます。

<http://www.veritas.com/community/>

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT)

Veritas SORT (Service and Operations Readiness Tools) は、特定の時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、**SORT** はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。**SORT** がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	NetBackup 10.5 について	8
	NetBackup 10.5 のリリースについて	8
	NetBackup の最新情報について	9
	NetBackup サードパーティの法的通知について	9
第 2 章	新機能、拡張機能および変更	10
	NetBackup の新しい拡張と変更について	10
	NetBackup 10.5 の新機能、変更点、拡張機能	10
	Veritas 用語の変更点	12
	NetBackup 10.5 の RESTful API	13
	nbdb2adutl コマンドの更新	14
	NetBackup Web UI でのダッシュボードの変更	14
	NetBackup Web UI での NetBackup for VMware の新機能	14
	NetBackup for DB2 の新機能	15
	NetBackup for Microsoft SQL Server の新機能および変更点	15
	クラウド資産のポリシーの管理	15
	Cloud Scale と Cloud Scale の分離	16
	NetBackup でのファイルハッシュを使用したファイルの検索	17
	Kubernetes ポリシーを使用した Kubernetes 作業負荷のメディアオ ブションとしてのテープのサポート	17
	NetBackup 10.5 のサポートの追加および変更点	17
	オペレーティングシステムの最小バージョン	18
	将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド	18
	暗号化キー管理と API キー操作に対するマルチパーソン認証のサ ポート	18
	AWS でのクラウド VM リカバリの BMR サポート	19
	TLS 1.3 プロトコルのサポート	19
	Microsoft Azure およびアマゾンウェブサービス (AWS) での Nutanix Cloud Clusters (NC2) のサポート	19
	マルウェアに感染したファイルとマルウェアのハッシュ値の表示のサ ポート	20
	NetBackup Snapshot Manager Microsoft Azure プラグインのディス ク形式プレミアム SSD v2 のサポート	20
	プロキシサービスの SSL/TLS のサポート	20

Azure での二重暗号化方式のサポート	20
アマゾンウェブサービスの地域エンドポイントのサポート	20
NetBackup for OpenStack – PSF の EOL (ライフサイクル終了)	21
MSDP ボリュームグループのサポート	21
マルウェアスキャンのための Cloud-Object-Store 作業負荷の種類 のサポート	21
クロスクラウドプロバイダリストアのサポート	21
クライアントのプッシュステージング領域が入力されなくなった	21
プライマリサーバーとメディアサーバーにインストールされるバイナリに ついて	22
NetBackup 10.5 のインストール後またはこのバージョンへのアップグ レード後すぐにプライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更 新する	22
OCI (Oracle Cloud Infrastructure) の NetBackup 保護	23
秘密鍵の暗号化のサポート	23
セキュリティ構成リスクについて	23
NetBackup ガイドのタイトルの変更点	23

第 3 章

操作上の注意事項	25
NetBackup 10.5 の操作上の注意事項について	25
NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項	26
Windows で NetBackup 10.5 のアップグレードが失敗した場合に以 前のログフォルダ構造に戻す	26
ネイティブインストールの要件	26
NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名 を使用する必要がある	27
HP-UX Itanium vPars SRP のコンテナのサポートについて	27
NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項	28
ICA (インテリジェントカタログアーカイブ) が MSDP クラウドでサポー トされない	28
一部の作業負荷環境におけるアップグレード前のジョブデータベース のサイズの削減	28
Replication Director を使用するポリシーがエラーコード 4224 で失 敗する	28
NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項	29
[カタログ (Catalog)] 領域で列を追加または削除する際に NetBackup Web UI で遅延が発生する	29
NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が 発生する	30

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、 NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する	30
NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷の操作上の注意事項	30
NetBackup バージョン 10.5 の AIR (自動イメージレプリケーション) では NetBackup 10.2 以降が必要	30
Azure で、古いポリシーが新しいバックアップホストで更新されるとバック アップが失敗する	31
レプリケートされたバックアップを古い NetBackup バージョンにリスト アできない	31
NetBackup Snapshot Manager (以前の NetBackup CloudPoint)	31
AWS マーケットプレース AMI から作成されたインスタンスでインデッ クス付けがサポートされない	31
NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意 事項	32
NetBackup for Microsoft SQL Server の操作上の注意事項	32
NetBackup for VMware の操作上の注意事項	32
NetBackup NAS の操作上の注意事項	33
ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないこと がある	33
RD ストレージユニットがレプリケーションターゲットとして一覧表示され ない	33
NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項	33
haproxy 接続で NetBackup for OpenStack Datamover API (NBOSDMAPI) サービスがタイムアウトする	34
増分バックアップのインスタンスボリュームをマウントできない	34
リストアされた VM に空のメタデータ config_drive が接続される	34
SSL 対応 Keystone URL に対して安全でない方法での操作が許可 されない	34
スタックの更新後に、[NBOS Backups] タブと [NBOS Backup Admin] タブが Horizon UI から消える	34
NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項	35
データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環 境のサポート	35
特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字 を含めないようにする	36
付録 A NetBackup ユーザーの SORT について	37
Veritas Services and Operations Readiness Tools について	37

付録 B	NetBackup のインストール要件	39
	NetBackup のインストール要件について	39
	NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新	40
	NetBackup 10.5 のバイナリサイズ	41
付録 C	NetBackup の互換性の要件	43
	NetBackup のバージョン間の互換性について	43
	NetBackup の互換性リストと情報について	44
	NetBackup の End-of-Life のお知らせについて	44
付録 D	他のNetBackup マニュアルおよび関連マニュアル	46
	NetBackup の関連マニュアルについて	46

NetBackup 10.5 について

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 10.5 のリリースについて](#)
- [NetBackup の最新情報について](#)
- [NetBackup サードパーティの法的通知について](#)

NetBackup 10.5 のリリースについて

『NetBackup リリースノート』のドキュメントは NetBackup のバージョンのリリースに関する情報のスナップショットとして機能します。古い情報およびリリースに適用しない情報はリリースノートから削除されるか、または NetBackup のマニュアルセットの別の所に移行されます。

p.10 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

EEB およびリリース内容について

NetBackup 10.5 には、以前のバージョンの NetBackup で顧客に影響を与えていた既知の問題の多くに対する修正が組み込まれています。これらの修正の一部は、お客様固有の問題に関連します。このリリースに組み込まれた顧客関連の修正のいくつかは、Emergency Engineering Binary (EEB) として利用可能になりました。

NetBackup 10.5 で修正された既知の問題を示す EEB および Etrack のリストは、Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトと、『NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド』にあります。

p.37 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup アプライアンスのリリースについて

NetBackup アプライアンスは、事前設定バージョンの NetBackup を含むソフトウェアパッケージを実行します。新しいアプライアンスソフトウェアリリースの開発時、NetBackup の

最新バージョンがアプライアンスコードの構築基盤として使われます。たとえば、NetBackup Appliance 3.1 は NetBackup 8.1 を基盤としています。この開発モデルにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup アプライアンスソフトウェアは、その構築基盤となる NetBackup リリースと同時に、またはそのすぐ後にリリースされます。NetBackup アプライアンスを利用する場合、実行する NetBackup アプライアンスバージョンの『NetBackup リリースノート』を確認する必要があります。

アプライアンス固有のマニュアルは次の場所から入手できます。

<http://www.veritas.com/docs/000002217>

NetBackup の最新情報について

NetBackup の最新情報や発表については、次の場所から利用可能な NetBackup の最新情報 Web サイトを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000040237>

他の NetBackup 固有の情報は、次の場所から提供されています。

https://www.veritas.com/support/en_US/15143.html

NetBackup サードパーティの法的通知について

NetBackup には、ベリタスによる所有者の揭示が義務付けられているサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。NetBackup に含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権通知とライセンスは、次の Web サイトで入手できる『NetBackup サードパーティの法的通知』文書に記載されています。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

新機能、拡張機能および変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の新しい拡張と変更について](#)
- [NetBackup 10.5 の新機能、変更点、拡張機能](#)

NetBackup の新しい拡張と変更について

NetBackup リリースには、新機能および製品修正に加えて顧客対応の新しい拡張と変更が含まれることがよくあります。よくある拡張の例には、新しいプラットフォームのサポート、アップグレードされた内部ソフトウェアコンポーネント、インターフェースの変更、拡張された機能のサポートなどがあります。新しい拡張と変更のほとんどは、『[NetBackup リリースノート](#)』および [NetBackup](#) の互換性リストに文書化されます。

メモ: 『[NetBackup リリースノート](#)』には、特定の [NetBackup](#) バージョンレベルでそのリリースのタイミングで開始される新しいプラットフォームサポートのみがリストされます。ただし、Veritas によって、以前のバージョンの [NetBackup](#) へのプラットフォームサポートのバックデートが定期的に行われます。最新のプラットフォームサポートのリストについては、[すべてのバージョンの NetBackup 互換性リスト](#)を参照してください。

p.8 の「[NetBackup 10.5 のリリースについて](#)」を参照してください。

p.44 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

NetBackup 10.5 の新機能、変更点、拡張機能

NetBackup 10.5 の新機能、変更点、および拡張機能は、以下のカテゴリ別にグループ化されます。トピックに関する詳細情報をお読みになるにはリンクを選択します。

新機能

- 「Veritas 用語の変更点」
- 「NetBackup 10.5 の RESTful API」
- 「nbdb2adutil コマンドの更新」
- 「NetBackup Web UI でのダッシュボードの変更」
- 「NetBackup Web UI での NetBackup for VMware の新機能」
- 「NetBackup for DB2 の新機能」
- 「NetBackup for Microsoft SQL Server の新機能および変更点」
- 「クラウド資産のポリシーの管理」
- 「Cloud Scale と Cloud Scale の分離」
- 「NetBackup でのファイルハッシュを使用したファイルの検索」

安全な通信の機能、変更点、および拡張機能

- **メモ:** NetBackup 10.5 をインストールまたは 8.1 より前のリリースからアップグレードする前に、『NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)』を必ずお読みになり、内容をご確認ください。NetBackup 8.1 には、NetBackup コンポーネントの安全な通信を向上させる多くの拡張機能が含まれています。『NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)』というドキュメントでは、次の拡張機能の特徴と利点を説明しています。

NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)

- 「秘密鍵の暗号化のサポート」
- 「セキュリティ構成リスクについて」

サポートの変更点と拡張機能

- 「NetBackup 10.5 のサポートの追加および変更点」
- 「オペレーティングシステムの最小バージョン」
- 「将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド」
- 「暗号化キー管理と API キー操作に対するマルチパーソン認証のサポート」
- 「AWS でのクラウド VM リカバリの BMR サポート」
- 「TLS 1.3 プロトコルのサポート」
- 「Microsoft Azure およびアマゾンウェブサービス (AWS) での Nutanix Cloud Clusters (NC2) のサポート」

- 「マルウェアに感染したファイルとマルウェアのハッシュ値の表示のサポート」
- 「NetBackup Snapshot Manager Microsoft Azure プラグインのディスク形式プレミアム SSD v2 のサポート」
- 「プロキシサービスの SSL/TLS のサポート」
- 「Azure での二重暗号化方式のサポート」
- 「アマゾンウェブサービスの地域エンドポイントのサポート」
- 「NetBackup for OpenStack – PSF の EOL (ライフサイクル終了)」
- 「MSDP ボリュームグループのサポート」

インストール、アップグレード、および構成の変更点と拡張機能

- 「クライアントのプッシュステージング領域が入力されなくなった」
- 「プライマリサーバーとメディアサーバーにインストールされるバイナリについて」

クラウド関連の変更点と拡張機能

- 「NetBackup 10.5 のインストール後またはこのバージョンへのアップグレード後すぐにプライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する」
- 「OCI (Oracle Cloud Infrastructure) の NetBackup 保護」

作業負荷とデータベースエージェントの変更点と拡張機能

- 「Kubernetes ポリシーを使用した Kubernetes 作業負荷のメディアオプションとしてのテープのサポート」

マニュアルの変更点と拡張機能

- 「NetBackup ガイドのタイトルの変更点」

Veritas 用語の変更点

Veritas では最新の用語を使用するため、特定の古い用語を最新の用語を置き換え始めています。

メモ: Veritas では用語の更新を続けているため、非推奨の用語と新しい用語が同じ意味で使用される場合があります。

非推奨の用語

マスター

スレーブ

新しい用語

プライマリ

セカンダリサーバーまたはメディアサーバー

非推奨の用語	新しい用語
ホワイトリスト	許可リスト
ブラックリスト	ブロックリスト
ホワイトハット	倫理的
ブラックハット	非倫理的

NetBackup 10.5 の RESTful API

NetBackup 10.5 は、更新された RESTful アプリケーションプログラミングインターフェース (API) と新しい RESTful API の両方を備えています。これらの API は、REST (Representational State Transfer) アーキテクチャで構築されています。これらは、ご使用の環境で NetBackup を構成および管理できる Web サービスベースのインターフェースを提供します。

API のマニュアル

NetBackup API のマニュアルは、SORT とプライマリサーバーにあります。「はじめに」のセクションで、該当するバージョンのトピックと新機能のトピックを参照してください。

- SORT の場合:

NetBackup API のマニュアルは、SORT で入手できます。

[\[HOME\]](#)、[\[ナレッジベース \(KNOWLEDGE BASE\)\]](#)、[\[文書 \(Documents\)\]](#)、[\[製品バージョン \(Product Version\)\] 10.5](#)

[\[API リファレンス \(API Reference\)\]](#) の下を参照します。『はじめに』のマニュアルには、NetBackup API の使用に関する背景情報が記載されています。API YAML ファイルも参照できますが、実用的ではありません。SORT 上のマニュアルからは API をテストできません。

- プライマリサーバーの場合:

API は、プライマリサーバー上の YAML ファイルに格納されています。

```
https://<primary_server>/api-docs/index.html
```

API は Swagger 形式で記述されています。この形式では、コードを確認し、API の実際の呼び出しを実行して機能をテストできます。Swagger API を使用するには、プライマリサーバーと API にアクセスするための適切なセキュリティ権限が必要です。

注意: Veritas は、開発環境でのみ API をテストすることをお勧めします。Swagger ファイルから実際の API の呼び出しを実行できるため、本番環境では API をテストしないでください。

nbdb2adutil コマンドの更新

NetBackup 10.5 には、nbdb2adutil コマンドの更新が含まれています。このコマンドには、強化されたアクセス制御と、データベースバックアップイメージの問い合わせおよび抽出機能が追加されました。さらに、このコマンドを使用するには bpnbat ログオンが必要になります。詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』の nbdb2adutil コマンドを参照してください。

NetBackup Web UI でのダッシュボードの変更

NetBackup Web UI では、NetBackup Web UI のダッシュボードの外観と機能が変わっています。

- ジョブ、バックアップの異常検出、マルウェア検出、一時停止された保護、証明書、トークンのデータを手動で更新できます。更新コントロールはウィジェットの右上隅に表示されます。
- ジョブウィジェットのデータは 30 秒ごとに更新されます。手動更新を実行すると、ポーリング更新はその手動更新の 30 秒後に再開されます。
- 時間枠オプション (過去 24 時間、過去 48 時間など) は、該当するウィジェットの左下に移動されました。
- 証明書ウィジェットの 경우、[NetBackup] と [外部 (External)] のタブが削除されて、左下隅の一覧から証明書の種類を選択できます。

NetBackup Web UI での NetBackup for VMware の新機能

このリリースでは次の機能を利用できます。

- ユーザーが RBAC の役割を作成するときに、資産としてデータセンターを選択し、それに RBAC 権限を適用できます。
- ユーザーが [VMware サーバー (VMware servers)] タブから VMware サーバーを管理するときに、データセンターの権限を管理できます。
- VMware vCloud Director オブジェクト階層または VMware Sphere (vCenter) オブジェクト階層を使用して、VM レベルで RBAC 権限を付与できます。新しい役割を作成するとき、または VM の [権限を管理 (Manage permissions)] オプションを選択するときに、この方法で権限を適用できます。
- 新しい構成オプション VM_SNAPSHOT_QUIESCE_STATUS は、ターゲット VMware 仮想マシンの静止が失敗したときに、スナップショットジョブの状態を 0 から 1 (部分的な成功) に変更する機能を提供します。この変更は、Web UI または管理コンソールのどちらを使用する場合でも、ジョブに影響することがあります。

NetBackup for DB2 の新機能

このリリースでは次の機能を利用できます。

- デフォルトの DB2 管理者という名前の RBAC の役割は、DB2 管理者用に、コマンド `nbdb2adutl` を使用して DB2 バックアップを表示およびリストアするための権限を提供します。また、管理者は DB2 ジョブを表示および管理することもできます。
- `nbdb2adutl` コマンドは、DB2 バックアップイメージを問い合わせるか、NetBackup カタログから抽出する機能を追加します。

NetBackup for Microsoft SQL Server の新機能および変更点

このリリースでは次の機能を利用できます。

- 新しいコマンド `nbsqlcmd` は、コマンドラインから SQL Server 資産を管理する機能を提供します。コマンド `nbsqladm -add_dba` で構成された委任権限は RBAC に変換されないことに注意してください。管理者は、必要な RBAC の役割を SQL Server 管理者に個別に適用する必要があります。
- リストア操作を実行する前にアクティブなユーザーを切断するためのリカバリオプション、[アクティブなユーザーを切断する (Disconnect active users)] を追加しました。

今後の変更に関するお知らせ

- 今後のリリースでは、コマンド `nbsqladm` の使用は無効になります。bp.conf のエントリ `ENABLE_NBSQLADM` はデフォルトで無効になり、`nbsqladm` からの要求は許可されません。管理者は、`ENABLE_NBSQLADM` オプションの有効化を選択できます。
- 今後のリリースでは、NetBackup 管理コンソールと NetBackup Web UI からインスタンスグループが削除されます。

以下の項目は NetBackup 10.5 リリースで廃止されました。

- コマンド `nbsqladm` は廃止されました。
インスタンスグループとクレデンシャルを構成するためのコマンドラインオプションは適用できなくなり、新しいコマンド `nbsqlcmd` では利用できません。
`nbsqladm` コマンドは NetBackup 10.5 パッケージには含まれなくなりましたが、NetBackup 10.4 以前を使用する NetBackup クライアントではサポートされます。

クラウド資産のポリシーの管理

NetBackup 10.5 のこのリリースでは、クラウドの作業負荷の種類 (IaaS と PaaS) をサポートするポリシーを NetBackup UI で作成できます。ポリシーは、クライアントに存在するデータを保護するために作業負荷に適用されます。ポリシーに対して、ポリシーの追加、編集、削除、スケジュール設定などのさまざまな操作を実行できます。詳しくは、『NetBackup クラウド管理者ガイド』を参照してください。

Cloud Scale と Cloud Scale の分離

次に、このリリースでの Cloud Scale の機能、拡張機能、変更と Cloud Scale の分離について説明します。

Cloud Scale

- 単一ノードの Kubernetes 環境での Cloud Scale の配備
 Cloud Scale Technology は、Kubernetes クラスターの単一ノードに配備できます。この配備では、Kubernetes クラスター内で必要になるノードが 1 つだけであるため、すべての Cloud Scale コンポーネントを簡単に配備でき、コスト効率の高いソリューションが提供されます。
- メディアサーバーのロードバランサーのコスト最適化
 メディアサーバーごとの最大ジョブ数の設定が原因でジョブがキューに投入された状態にある場合にも、CPU とメモリの使用率に加えて、メディアサーバーのスケールアウトが実行されます。

Cloud Scale の分離

- Cloud Scale の分離
 プライマリサーバーからの NetBackup Web サービスの分離。NetBackup Web サービスは、Cloud Scale Technology でプライマリサーバーから分離 (関連付け解除) されます。この変更は、Web サービスをコンテナ化し、Kubernetes クラスターでスタンダードアロンサービスポッドとして実行するために行われました。
 - fluentbit を使用した Cloud Scale ログの統合された場所
 この機能を使用すると、スケールアウト環境で NetBackup を実行するプロセス中に配布されたログファイルを統合できます。
 - プライマリサーバーからの NetBackup ポリシーとジョブ管理 (NBPEM/NBJM) の分離
 NetBackup ポリシーとジョブ管理機能はプライマリサーバーから分離され、Kubernetes クラスターで個別のサービスとして実行されます。
 - NetBackup 認証ブローカー (nbatd) サービス
 nbatd の FIPS モードの有効化: Cloud Scale 配備では、nbatd コンテナ化サービスは、NetBackup プライマリサーバーポッドではなく、別の Kubernetes ポッドクラスターサーバーで実行されます。そのため、NetBackup 認証ブローカーサービスに対して FIPS モードを有効にします。
 AD/LDAP ドメイン: Cloud Scale 配備では、nbatd コンテナ化サービスは、NetBackup プライマリサーバーポッドではなく、別の Kubernetes ポッドクラスターサーバーで実行されます。そのため、プライマリサーバー Kubernetes ポッドの既存の AD/LDAP ドメイン構成は機能しません。AD/LDAP ドメインを再構成してください。
- スケールアウトサーバー向けのルーティングと負荷分散の要求

NetBackup がスケールアウトフォームファクタに配備された NetBackup Cloud Scale の配備では、外部要求用に要求ルーターと呼ばれる単一のエンドポイントが作成され、システムに設定されます。要求は、適切なサービスまたは処理するサービスの個々のインスタンスに配布されます。

詳しくは、『Kubernetes クラスタ向け NetBackup 配備ガイド』を参照してください。

NetBackup でのファイルハッシュを使用したファイルの検索

ファイルのファイルハッシュを使用してファイルを検索できます。アクセラレータバックアップでは、ファイルハッシュ検索がサポートされています。ファイルハッシュサーバーを構成し、バックアップポリシーでファイルハッシュ計算を有効にすると、クライアントのバックアップ中にファイルの SHA-256 ハッシュが計算され、ファイルハッシュサーバーに保存されます。

詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』のトピックタイトル「NetBackup でのファイルハッシュ検索の構成」を参照してください。

Kubernetes ポリシーを使用した Kubernetes 作業負荷のメディアオプションとしてのテープのサポート

NetBackup 10.5 は、Kubernetes ポリシーを使用した Kubernetes 作業負荷のテープメディアのバックアップとリストア操作をサポートするようになりました。

NetBackup 10.5 のサポートの追加および変更点

メモ: この情報は変更されることがあります。最新の製品およびサービスのサポートの追加および変更については、「[NetBackup Compatibility List for all Versions](#)」を参照してください。

NetBackup 10.5 以降では、次の製品およびサービスがサポートされるようになりました。

- プラットフォーム
 - RedHat OpenStack プラットフォーム (RHOSP):17.1
 - データベースエージェント
 - MySQL 8.x - Rocky Linux 9 上の Rocky Linux 9.x
 - PostgreSQL 15.x - Ubuntu 24.04 上の Ubuntu 24.04
 - PostgreSQL 16.x - Ubuntu 24.04 上の Ubuntu 24.04
 - MariaDB 11.x - Ubuntu 24.04 上の Ubuntu 24.04
 - その他のサポートと変更

- NetBackup Snapshot Manager 側でのプロキシに対する SSL/TLS のサポート (Azure VM ベースの配備のみ)
- NetBackup Snapshot Manager ホスト - Rocky Linux 9.3 および 9.4
- NetBackup Snapshot Manager、OCI - Linux OS のスナップショットからのインデックスと単一ファイルのリストア
- Azure VM から AWS または AWS から Azure VM へのリストア
- 新しく追加された Azure リージョン (スペイン中部、メキシコ中部) と NetBackup Snapshot Manager の OS サポート

オペレーティングシステムの最小バージョン

NetBackup に必要な最小オペレーティングシステムが変更されます。NetBackup 10.5 以降の最小オペレーティングシステムは次のとおりです。

- RedHat Linux x86: 4.18.0-372
- IBMpSeriesRedHat: 4.18.0-372
- IBMzSeriesRedHat: 4.18.0-372
- Debian: 4.18.0-372
- IBMpSeriesSuSE: 5.3.18-22
- IBMzSeriesSuSE: 5.3.18-22

将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド

NetBackup プロセスとデーモンのシャットダウン用の新しい、詳細に文書化されたコマンドが今後のリリースで提供される予定です。その時点で、次のコマンドは利用できなくなります。

- `bp.kill_all`
- `bpdown`
- `bpclusterkill`

この変更に応じた計画を立ててください。新しいコマンドは、今後のリリースノートおよび『NetBackup コマンドリファレンスガイド』で発表されます。

暗号化キー管理と API キー操作に対するマルチパーソン認証のサポート

このリリース以降、暗号化キー管理と API キーに関連付けられた操作に対して、マルチパーソン認証を有効にできます。

AWS でのクラウド VM リカバリの BMR サポート

このリリース以降、NetBackup には、RHEL プラットフォームオペレーティングシステムの仮想マシンイメージレベルで AWS リカバリを実行するための BMR サポートが含まれません。

TLS 1.3 プロトコルのサポート

このリリース以降、NetBackup は、次の安全な通信ワークフローで TLS 1.3 プロトコルをデフォルトでサポートします。

- セキュアプロキシ
- 移動中のデータの暗号化 (DTE)
- 外部 KMS サーバー
- AD/LDAP サーバー
- MSDP
- cURL を使用した HTTPS 通信

このリリース以降、SHA1 を使用した外部 CA が発行した X509 証明書は、NetBackup でサポートされなくなります。NetBackup のアップグレードの前に、NetBackup で使用されているすべての外部 CA が発行した証明書を、SHA-256 署名証明書またはより強力な署名アルゴリズムに更新します。

Microsoft Azure およびアマゾンウェブサービス (AWS) での Nutanix Cloud Clusters (NC2) のサポート

NetBackup は、Microsoft Azure およびアマゾンウェブサービス (AWS) の両方の Nutanix Cloud Clusters (NC2) VM に対して保護を提供します。詳しくは、次のテクニカルノート記事を参照してください。

- AWS の Nutanix Cloud Clusters (NC2) に対する NetBackup の保護:
https://www.veritas.com/support/en_US/article.100069691.html
- Azure の Nutanix Cloud Clusters (NC2) に対する NetBackup の保護:
https://www.veritas.com/support/en_US/article.100069692.html

最新の製品およびサービスのサポートの追加および変更については、すべてのバージョンの NetBackup 互換性リストを参照してください。

マルウェアに感染したファイルとマルウェアのハッシュ値の表示のサポート

このリリースでは、マルウェアに感染したファイルのハッシュ値 (SHA-256) が、.csv ファイルに含まれています。.csv ファイルには、感染したファイルのバックアップ時刻、名前、ハッシュ、およびウイルス情報が含まれています。詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

NetBackup Snapshot Manager Microsoft Azure プラグインのディスク形式プレミアム SSD v2 のサポート

次に、このリリースに関連するサポートの変更について説明します。

- NetBackup Snapshot Manager Microsoft Azure プラグインは、Premium SSD v2 (PremiumV2_LRS) のディスクをサポートします。詳しくは、クラウド向けの NetBackup Snapshot Manager のインストールおよびアップグレードガイドを参照してください。
- NetBackup は、VHDX ディスク (Azure Ultra ディスク、4K セクタサイズの Premium SSD v2) のインデックス付けと個別リストアをサポートしません。詳しくは、『NetBackup クラウド管理者ガイド』を参照してください。

プロキシサービスの SSL/TLS のサポート

このリリースでは、Azure ベースの VM 配備で、NetBackup Snapshot Manager はプロキシサービスの SSL/TLS のサポートを提供します。プロキシ証明書は、NetBackup Snapshot Manager とプロキシサーバー間の通信のために、NetBackup Snapshot Manager トラストストアに追加する必要があります。詳しくは、クラウド向けの NetBackup Snapshot Manager のインストールおよびアップグレードガイドを参照してください。

Azure での二重暗号化方式のサポート

NetBackup 10.5 では、Azure でディスクを暗号化するための二重暗号化方式がサポートされるようになりました。詳しくは、クラウド向けの NetBackup Snapshot Manager のインストールおよびアップグレードガイドのクラウド向けの NetBackup Snapshot Manager でのボリュームの暗号化に関する項を参照してください。

アマゾンウェブサービスの地域エンドポイントのサポート

NetBackup 10.5 では、アマゾンウェブサービスの STS 地域エンドポイントがサポートされるようになりました。アマゾンウェブサービスでは、グローバルエンドポイントではなく STS 地域エンドポイントを使用することを推奨しています。詳しくは、クラウド向けの NetBackup Snapshot Manager のインストールおよびアップグレードガイドを参照してください。

NetBackup for OpenStack – PSF の EOL (ライフサイクル終了)

NetBackup for OpenStack – PSF はライフサイクル終了に達しました。NetBackup 10.5 は、NetBackup for OpenStack – PSF をサポートする最後の NetBackup バージョンです。NetBackup for OpenStack (OpenStack の統合フレームワーク) は引き続きサポートされます。今後の NetBackup のサポート計画について詳しくは、次のリンクをクリックしてください: [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定](#)

MSDP ボリュームグループのサポート

通常、大規模な NetBackup システムには、複数の MSDP サーバーがあります。それらを 1 つのプールとしてグループ化して、MVG (MSDP ボリュームグループ) を使用した管理を簡略化できるようになりました。MVG は、個々の MSDP ストレージサーバーの上にストレージ層のボリュームグループを構築する MSDP 機能です。詳しくは、『NetBackup 重複排除ガイド』の「MVG (MSDP ボリュームグループ)」の章を参照してください。

マルウェアスキャンのための Cloud-Object-Store 作業負荷の種類のサポート

NetBackup 10.5 では、Cloud-Object-Store 作業負荷の種類のマルウェアスキャンがサポートされるようになりました。詳しくは、『NetBackup クラウドオブジェクトストア管理者ガイド』を参照してください。

クロスクラウドプロバイダリストアのサポート

NetBackup 10.5 では、保護対象のクラウド VM を別のクラウドサービスプロバイダでリストアすることがサポートされるようになりました。たとえば、AWS から Azure およびその逆や、スナップショットコピーからのバックアップからなどです。詳しくは、『NetBackup クラウド管理者ガイド』を参照してください。

クライアントのプッシュステージング領域が入力されなくなった

NetBackup 10.5 の時点で、NetBackup クライアントのプッシュインストールとアップグレードのステージング領域は、プライマリサーバーとメディアサーバーのインストールまたはアップグレード中に入力されなくなりました。NetBackup 10.5 以降では、クライアントのファミリーではなく、1 つのクライアントを使用してクライアントのプッシュインストールとアップグレードを実行できます。たとえば、Linux-ppc64le Red Hat クライアントを、Linux-ppc64le SuSE クライアントも追加せずに追加できます。

詳しくは、インストールガイドまたはアップグレードガイドの「プライマリサーバーへのクライアント形式のソフトウェアのインストール」セクションを参照してください。

プライマリサーバーとメディアサーバーにインストールされるバイナリについて

NetBackup 10.3 以降、Veritas はメディアサーバーにプライマリサーバーのバイナリを提供しなくなりました。この変更は、インストール済みの占有域を減らし、メディアサーバー上の潜在的に脆弱なコンポーネントの数を最小限に抑えるために行われました。

NetBackup の総合的な性質を考えると、Veritas ではインストール済みバイナリのリストを提供できません。NetBackup にはプライマリサーバーとメディアサーバーに利用可能な無数のインストールオプションがあり、そのすべてがインストールされるバイナリに影響します。

NetBackup 10.5 のインストール後またはこのバージョンへのアップグレード後すぐにプライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する

NetBackup 環境でクラウドストレージを使用する場合には、NetBackup 10.5 をインストールするか、そのバージョンにアップグレードした直後に、NetBackup プライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する必要がある場合があります。NetBackup 10.5 へのアップグレード後にクラウドプロバイダまたは関連の拡張機能がクラウド構成ファイルから利用できない場合、関連する操作は失敗します。

Veritas は次回のリリースを待たずに、クラウド構成ファイルに新しいクラウドサポートを継続的に追加します。クラウド構成ファイルの更新は、クラウド構成パッケージのバージョン 2.12.0 以降にクラウドストレージプロバイダが追加された場合のみ必要です。

バージョン 2.12.1 以降には次のクラウドサポートが追加されていますが、NetBackup 10.5 の最終ビルドには含まれていませんでした。

- COSP (クラウドオブジェクトストア保護) - Dell EMC PowerScale シリーズ
- HCP (Hitachi Content Platform) S3 オブジェクトロック
- Beijing XSKY エンタープライズオブジェクトストレージ S3 オブジェクトロック
- Calamu Protect (S3)
- Amazon (S3) - カナダ西部 (カルガリー) 地域
- NEC Cloud IaaS オブジェクトストレージ N2 (S3)

最新のクラウド構成パッケージについては、次の技術情報を参照してください。

https://www.veritas.com/content/support/en_US/downloads/update.UPD971796

クラウドストレージ構成ファイルの追加方法については、次の技術情報を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/100039095>

OCI (Oracle Cloud Infrastructure) の NetBackup 保護

OCI (Oracle Cloud Infrastructure) の NetBackup 保護には現在、次のサポートは含まれていません。

- IPv6
- Govt.cloud
- 自動イメージレプリケーション (AIR)
- FIPS
- 共有 VPC

秘密鍵の暗号化のサポート

ホスト ID ベースの証明書は、すべてのホストに対して暗号化された秘密鍵を使用して生成されます。NetBackup 証明書の秘密鍵は、AES_256_CBC 暗号化を使用した暗号化形式で格納されます。秘密鍵の暗号化に使用されるパスワードは、ファイルストレージに格納され、AES_256_GCM 暗号化を使用して暗号化されます。

セキュリティ構成リスクについて

セキュリティ構成リスクは、NetBackup ドメインのセキュリティ設定の状態によって異なります。構成リスクのスコアが高いほど、セキュリティ構成が弱いことを示します。リスクを最小限にするには、必要なセキュリティ設定をすべて有効にして推奨値にします。NetBackup Web UI ダッシュボードに、セキュリティ構成リスクのスコアが表示されます。セキュリティ設定を変更すると、ダッシュボードのリスクスコアが更新されます。詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』を参照してください。

NetBackup ガイドのタイトルの変更点

いくつかのガイドでは、新しい Web UI ガイドとレガシーガイド (存在する場合) の内容がマージされました。この変更は、NetBackup 作業負荷のすべての情報が単一のガイドに統合されたことを意味します。このリリース以降、影響を受けるガイドの次のタイトルが変更され、「Web UI」という用語は含まれなくなりました。

NetBackup™ for Apache Cassandra 管理者ガイド

NetBackup™ for Red Hat Virtualization 管理者ガイド

NetBackup™ for Nutanix AHV 管理者ガイド

NetBackup™ for MySQL 管理者ガイド

NetBackup™ for PostgreSQL 管理者ガイド

NetBackup™ for Microsoft SQL Server 管理者ガイド

NetBackup™ for VMware 管理者ガイド

NetBackup™ クラウドオブジェクトストア管理者ガイド

NetBackup™ for Kubernetes 管理者ガイド

操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 10.5 の操作上の注意事項について](#)
- [NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Snapshot Manager \(以前の NetBackup CloudPoint\)](#)
- [NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup NAS の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項](#)

NetBackup 10.5 の操作上の注意事項について

NetBackup の操作上の注意事項は、NetBackup のマニュアルセットまたは Veritas のサポート Web サイトのどこにも文書化されない可能性のある NetBackup のさまざまな操作に関する重要な点について説明したものです。操作上の注意事項は、NetBackup の各バージョンに対応する形で『NetBackup リリースノート』に記載されます。通常、操作上の注意事項には、既知の問題、互換性の問題、およびインストールとアップグレードに関する追加情報が含まれます。

操作上の注意事項は、NetBackup のバージョンがリリースされた後に追加または更新されることがよくあります。この結果、オンラインバージョンの『NetBackup リリースノート』またはその他の NetBackup マニュアルは、リリース後の更新となる場合があります。の指

定のリリースに関する最新版のマニュアルセットには、ベリタスのサポート Web サイトの次の場所でアクセスできます。NetBackupVeritas

[NetBackup のリリースノート](#)、[管理者ガイド](#)、[インストールガイド](#)、[トラブルシューティングガイド](#)、[スタートガイド](#)、[ソリューションガイド](#)

NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまな方法を使って異機種混合環境でインストールしたり、アップグレードしたりすることができます。NetBackup は、同一環境で混在しているさまざまなリリースレベルの NetBackup サーバーとクライアントとも互換性があります。このトピックでは、NetBackup 10.5 のインストール、アップグレード、ソフトウェアパッケージに関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

Windows で NetBackup 10.5 のアップグレードが失敗した場合に以前のログフォルダ構造に戻す

root 以外または管理者以外で起動したプロセスのログについて、レガシーログフォルダ構造が変更されました。新しいフォルダ構造は、プロセスログディレクトリ名の下に作成されます。詳しくは、『[NetBackup ログリファレンスガイド](#)』のレガシーログのファイル名形式に関するセクションを参照してください。

Windows の場合、NetBackup 10.5 へのアップグレードが失敗してロールバックが発生した場合は、次のコマンドを実行して、以前のバージョンの NetBackup での作業を続行します。

```
mklogdir.bat -fixFolderPerm
```

詳しくは、『[NetBackup コマンドリファレンスガイド](#)』で mklogdir コマンドの説明を参照してください。

ネイティブインストールの要件

NetBackup 8.2 で初期インストールが変更され、現在は応答ファイルが必要です。この変更は、ネイティブパッケージを使用して VM テンプレートを作成する、または製品を構成せずに NetBackup パッケージをインストールする必要があるユーザーに悪影響を及ぼす場合があります。Linux では、以前の動作を実現する方法の 1 つとして、RPM パッケージマネージャの `-noscripts` オプションを使用できます。VRTSnbpck パッケージのインストール時にこのオプションを指定すると、構成の手順を回避できます。このオプションは、その他のパッケージをインストールする場合に指定する必要はありません。この場合でも応答ファイルは存在する必要がありますが、指定する必要がある値は、マシンのロール (クライアントまたはメディアサーバーのいずれか) のみです。次に例を示します。

```
echo "MACHINE_ROLE=CLIENT" > /tmp/NBInstallAnswer.conf  
rpm -U --noscripts VRTSnbpck.rpm  
rpm -U VRTSspbx.rpm VRTSnbclt.rpm VRTSpddea.rpm
```

NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名を使用する必要がある

NetBackup 8.0 以降では、すべての NetBackup サーバー名に RFC 1123 (「Requirements for Internet Hosts - Application and Support」) と RFC 952 (「DOD Internet Host Table Specification」) の規格に準拠するホスト名を使用する必要があります。これらの規格には、ホスト名に使用できる文字と使用できない文字が規定されています。たとえば、ホスト名にアンダースコア文字 (_) は使用できません。

これらの規格とこの問題に関して詳しくは、次の資料を参照してください。

[RFC 952](#)

[RFC 1123](#)

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000125019

これらの規格は、すべての NetBackup ホストを含む、すべての計算ホストに適用する必要があります。レガシーの環境と機能に対応するため、2010 年より前に実装された NetBackup 機能では、一部の準拠しない文字が引き続き許可されます。ただし、これより新しい機能や最近統合されたサードパーティコンポーネントは、業界規格に準拠しないホスト名についてテストされておらず、このようなホスト名との互換性はない可能性があります。

状況によっては、規格に準拠するネットワークホスト名のエイリアスでネームサービスを構成し、NetBackup を構成するときにエイリアスを使用できる場合があります。ただし、すべての機能との互換性が確実なのは、規格に準拠するホスト名を使用した場合です。

HP-UX Itanium vPars SRP のコンテナのサポートについて

Hewlett-Packard Enterprise (HPE) は、HP-UX Virtual Partitions (vPars) 対応サーバーに Secure Resource Partitions (SRP) という新しいタイプのコンテナを導入しました。SRP で導入されたセキュリティ変更の一部として、swinstall や swremove などのネイティブ HP-UX インストールツールの SRP 環境内での実行は無効です。swinstall と swremove ツールは vPars を実行しているグローバルホストからのみ呼び出すことが可能で、SRP コンテナにネイティブパッケージをプッシュインストールします。

NetBackup はグローバルビューへのインストールのみをサポートします。HPE Itanium SRP コンテナ (プライベートファイルシステム、共有ファイルシステムまたは作業負荷) へのインストールを試行すると、NetBackup のインストールが失敗します。

NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまなプラットフォームに対して、完全かつ柔軟なデータ保護ソリューションを提供します。対象となるプラットフォームには、Windows、UNIX、Linux システムなどが含まれます。データ保護機能の標準セットに加えて、NetBackup は他の複数のライセンス付与されたコンポーネントとライセンス付与されていないコンポーネントを活用して、さまざまな異なるシステムや環境をより強力に保護できます。このトピックでは、NetBackup 10.5 の管理に関連する一般的な操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

ICA (インテリジェントカタログアーカイブ) が MSDP クラウドでサポートされない

NetBackup 10.5 では、ICA (インテリジェントカタログアーカイブ) はどの MSDP クラウド環境でも利用できません。

一部の作業負荷環境におけるアップグレード前のジョブデータベースのサイズの削減

NetBackup 9.0 以前から NetBackup 9.1 以降へのアップグレード後に、資産レベルでのアクセス制御を可能にするため、特定の作業負荷の既存のジョブに資産の名前空間が割り当てられます。この処理には時間がかかる場合があります。アップグレードの前にジョブデータベースのサイズを減らす必要があります。この処理により、関連付けを実行するために必要な処理の量が最小化され、Web サービスのパフォーマンスに与える影響が最小限に抑えられます。非常に大規模なジョブデータベースでは、ヒープ領域の高使用率に関連したアラートが表示される場合があります。

影響を受ける作業負荷には、クラウド、Nutanix AHV、RHV、VMware が含まれます。

詳しくは、次の記事を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/100049808>

Replication Director を使用するポリシーがエラーコード 4224 で失敗する

NetBackup Web UI で [Replication Director を使用 (Use Replication Director)] オプションおよび [スナップショットバックアップを実行する (Perform snapshot backups)] オプションが選択された既存のポリシーを変更しようとする、次のエラーが表示されます。

```
Error code 4224: Host. STS Internal Error
```

BPFIS ログに次のメッセージが表示されます。

```
15:16:13.416 [35337] <2> onlfi_vfms_logf: INF - snapshot services:
ostfi:2023-09-26 15:16:13.416029 <Thread id - 1> Failed to wait for

operation result, Error code [2060017] and message [system call
failed]
15:16:13.417 [35337] <2> onlfi_vfms_logf: INF - snapshot services:
ostfi:2023-09-26 15:16:13.417125 <Thread id - 1> OST Library call
failed with message (STS API waitForAsyncCall failed with error
code : 2060017)
```

回避方法:

次のいずれかの操作を実行します。

- エラーが表示された[ポリシーの検証 (Policy validation)]ダイアログボックスで、[エラーを無視して保存 (Ignore errors and save)]をクリックします。NetBackup 管理コンソール (Java UI) を開き、ポリシーを編集して保存します。
- エラーが表示された[ポリシーの検証 (Policy validation)]ダイアログボックスで、[ポリシーを編集 (Edit policy)]をクリックします。ポリシーを保存するには、[保存 (Save)]をクリックします。トポロジー検証オプションが表示された[ポリシーの検証 (Policy validation)]ダイアログボックスで、トポロジー検証オプションとして、[完了 (Complete)]ではなく[なし (None)]または[基本 (Basic)]を選択して保存します。

NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項

NetBackup 管理者には、NetBackup の管理に使用できる複数のインターフェースの選択肢があります。すべてのインターフェースには同様の機能があります。このトピックでは、NetBackup 10.5 のこれらのインターフェースに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

個々の NetBackup 管理インターフェースについて詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド』または『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

インターフェースをインストールする方法については、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。管理コンソールとプラットフォームの互換性については、Veritas のサポート Web サイトにある各種の NetBackup 互換性リストを参照してください。

p.44 の「NetBackup の互換性リストと情報について」を参照してください。

[カタログ (Catalog)]領域で列を追加または削除する際に NetBackup Web UI で遅延が発生する

Web UI の[カタログ (Catalog)]領域では、イメージのテーブルに対して列の追加や削除を行えます。表示されるイメージが多いほど、列を追加または削除する際に、インターフェースの更新に時間がかかります。この問題は、今後のリリースで修正される予定です。

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングにおいて、断続的に問題が発生する場合があります。この動作は、X フォワーディングを使用するときのみ発生します。この問題は、ローカルコンソールでは発生しません。問題の多くは Linux サーバーにおいて発生しますが、それに限定されるものではありません。この問題は、一般的には Xming や XBrowser などの古いバージョンの X ビューアが使用されたときに発生します。

MobaXterm を使用すると、問題の発生を最小限に抑える、または問題を解消できるとも考えられます。X フォワーディングで問題が発生した場合には、X ビューアをアップグレードして同じ操作を試みるか、またはローカルコンソールからサーバーにアクセスしてください。

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合があります。詳しくは、Oracle 技術ネットワーク Web サイトで次の URL からバグ ID 6901233 を参照してください。

http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6901233

この問題が発生した場合は、Oracle が提供する Solaris のパッチまたはアップグレードを適用し、この問題を修復してください。

NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷の操作上の注意事項

この項では、バージョン 10.5 の NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup バージョン 10.5 の AIR (自動イメージレプリケーション) では NetBackup 10.2 以降が必要

NetBackup バージョン 10.5 があるコンピュータから、10.2 より前のバージョンの NetBackup があるターゲットコンピュータに対し、AIR (自動イメージレプリケーション) を実行することはできません。

回避方法:

なし。ターゲットコンピュータを NetBackup バージョン 10.2 以降にアップグレードします。

Azure で、古いポリシーが新しいバックアップホストで更新されるとバックアップが失敗する

Azure で、10.3 より前の NetBackup バージョンで作成されたポリシーを新しいバックアップホストで更新すると、バックアップは失敗します。

バージョン 10.3 の修正された問い合わせ形式がこの問題の原因です。

回避方法:

バケット内のすべての既存の問い合わせを新しい形式に更新します。

レプリケートされたバックアップを古い NetBackup バージョンにリストアできない

NetBackup 10.3 以降で作成されたバックアップイメージを古い NetBackup バージョンにレプリケートする場合、古いバージョンの NetBackup を使用してデフォルトの保持が有効になっているバケットまたはコンテナをリストアできません。

回避方法:

1. NetBackup バージョン 10.3 以降でリストアします。
2. イメージを NetBackup バージョン 10.3 以降にレプリケートします。

NetBackup Snapshot Manager (以前の NetBackup CloudPoint)

AWS マーケットプレイス AMI から作成されたインスタンスでインデックス付けがサポートされない

AWS マーケットプレイス AMI から作成されたインスタンスのインデックス付け処理は、次のエラーで失敗します。

```
Failed to attach new volume: Cannot attach volume <vol-xxx>  
with Marketplace codes as the instance <i-xxx>  
is not in the 'stopped' state.
```

NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまなデータベースおよびアプリケーション技術を保護する方法をいくつか提供しています。このトピックでは、NetBackup 10.5 によるデータベース技術の保護に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup for Microsoft SQL Server の操作上の注意事項

NetBackup for SQL Server は、NetBackup for Windows の機能を拡張したもので、SQL Server データベースのバックアップおよびリストアを行います。これらの機能は、Linux 版または Windows 版の NetBackup プライマリサーバーを使用する Windows クライアント用に提供されます。このトピックでは、NetBackup 10.5 の NetBackup for Microsoft SQL Server に関わる操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup for VMware の操作上の注意事項

NetBackup 10.5 では、Web UI での VMware サーバー資産の検出に NetBackup 10.5 でバックアップホストが必要です。

NetBackup 10.5 以降、VMware サーバーのクレデンシャル検証と資産検出に使用するホストは、バージョン 10.5 である必要があります。そうでない場合、検出は失敗します。デフォルトでは、この値はプライマリサーバーです。プライマリサーバーを引き続き使用する場合、変更は必要ありません。

NetBackup 10.5 へのアップグレード後の Web UI での VMware ジョブの表示の変更点

NetBackup 10.5 へのアップグレード後、NetBackup 管理者のみが、アップグレード前に実行した VMware ジョブをアクティビティモニターに表示できます。アップグレード後に開始されるジョブは、ユーザーに付与されている RBAC 権限に基づいて、ユーザーが利用できます。

特定の VMware 資産を管理するために RBAC の役割を作成する前に、VMware サーバーの新しい検出が必要

NetBackup 10.5 へのアップグレード後、次の資産タイプを管理する RBAC の役割を作成する前に、VMware サーバーの新しい検出を実行する必要があります。

- vSphere (vCenter) オブジェクト階層内のデータセンター資産
- VMware Cloud Director オブジェクト階層内の VM

特定の VMware サーバーを管理する役割を作成する場合は、VMware サーバーの新しい検出は必要ありません。

NetBackup NAS の操作上の注意事項

NetBackup Snapshot Manager および NDMP V4 スナップショット拡張機能を使用して、クライアントデータのスナップショットを NAS ホスト上に作成できます。NAS スナップショットは、ある特定の時点のディスクイメージです。ディスク上のスナップショットは、任意の期間保持できます。NetBackup のインスタントリカバリ機能を使用すると、ディスクから効率的にデータをリストアできます。多くの場合、NetBackup では、NAS-Data-Protection ポリシーと NDMP ポリシーを使用して、NAS のスナップショットベースのデータ保護を実行できます。このトピックでは、NetBackup 10.5 の NetBackup NAS に関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある

NetBackup のネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) バックアップポリシーをバックアップ選択項目の `set type=tar` 指示句で設定している場合に、問題が起きることがあります。増分 NDMP バックアップが保存するファイルのパスの親ディレクトリはバックアップイメージに存在しない場合があります。この問題について詳しくは、ベリタス社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000095049>

RD ストレージユニットがレプリケーションターゲットとして一覧表示されない

NetBackup Web UI から SLP (ストレージライフサイクルポリシー) を構成するときに、RD (Replication Director) ストレージユニットが [宛先ストレージの属性 (Destination storage attributes)] の [レプリケーションターゲット (Replication target)] ドロップダウンに表示されません。この状況は、同じプライマリサーバーに ISM と RD の両方のレプリケーションターゲットを構成した場合に発生します。

回避方法:

NetBackup 管理コンソール (Java UI) またはコマンドラインインターフェース (CLI) を使用して SLP を構成します。

NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項

NetBackup for OpenStack はオプションの NetBackup アプリケーションです。このトピックでは、NetBackup 10.5 の NetBackup for OpenStack に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

haproxy 接続で NetBackup for OpenStack Datamover API (NBOSDMAPI) サービスがタイムアウトする

haproxy 接続の NBOSDMAPI サービスは、使用率の高い環境で応答時間に時間がかかることが原因でタイムアウトする場合があります。

ほとんどの環境では、デフォルトの haproxy 構成で正常に動作します。NBOSDMAPI でタイムアウトの問題が発生した場合は、haproxy 構成をカスタマイズしてください。詳しくは、次のテクニカルノートを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100052551

増分バックアップのインスタンスボリュームをマウントできない

増分バックアップ用インスタンスに新たに追加されたディスクは正常にバックアップされませんが、これらのディスクはマウントできません。

リストアされた VM に空のメタデータ config_drive が接続される

リストアのたびに、メタデータ config_drive が空白値で設定されます。

回避方法:

メタデータ config_drive を削除するか、必要な値を設定します。

SSL 対応 Keystone URL に対して安全でない方法での操作が許可されない

SSL 対応 OpenStack の場合、TLS CA 証明書バンドルの欠落エラーでバックアップジョブとリストアジョブが失敗します。

回避方法:

提供された OpenStack CA を使用して NetBackup Appliance を構成します。

または、OpenStack CA を /etc/nbosjm/ca-chain.pem に含めます。

スタックの更新後に、[NBOS Backups] タブと [NBOS Backup Admin] タブが Horizon UI から消える

OpenStack スタックを更新すると、NetBackup for OpenStack の Horizon UI で [NBOS Backups] タブと [NBOS Backup Admin] タブが表示されなくなります。スタックの更新によって、OpenStack からエンドポイントが誤って削除されます。この問題を解決するには、インストールパッケージに付属のスクリプト register_nbopenstack_service.sh を実行します。このスクリプトは、Horizon UI に [NBOS Backups] タブと [NBOS Backup Admin] タブが表示されるように、NetBackup for OpenStack サービスを登録します。

詳しくは、『NetBackup for OpenStack 管理者ガイド』を参照してください。

NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項

このトピックでは、NetBackup 10.5 の国際化、日本語化、および英語以外のロケールに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環境のサポート

NetBackup データベースおよびアプリケーションエージェントの次のフィールドでは、ASCII 以外の文字がサポートされています。

- Oracle:
データファイルパス、表領域名、TNS パス
- DB2:
データファイルパス、表領域名
- SAP:
英語版 SAP は、ローカライズされた OS で動作します。(ローカライズされた SAP フィールドは特にありません。)
- Exchange:
メールボックス、添付ファイルの名前と内容、パブリックフォルダ、連絡先、カレンダー、フォルダ、データベースパス
- SharePoint:
サイトコレクション名、ライブラリ、サイトコレクション内のリスト
- Lotus Notes:
電子メールデータ (.nsf ファイル)
- Enterprise Vault (EV) エージェント:
ボルトストア、パーティション、データ
- VMware:
ユーザー名、パスワード、VM 表示名、データセンター、フォルダ、データストア、リソースプール、VApp、ネットワーク名、VM ディスクパス

特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字を含めないようにする

NetBackup の次のユーザー定義の文字列には、非 US ASCII 文字を含めないようにする必要があります。

- ホスト名 (プライマリサーバー、メディアサーバー、Enterprise Media Manager (EMM) サーバー、ボリュームデータベースホスト、メディアホスト、クライアント、インスタンスグループ)
- ポリシー名
- ポリシーの KEYWORD (Windows のみ)
- バックアップ、アーカイブ、およびリストアの KEYWORD (Windows のみ)
- ストレージユニット名
- ストレージユニットディスクのパス名 (Windows のみ)
- ロボット名
- デバイス名
- スケジュール名 (Schedule Name)
- メディア ID
- ボリュームグループ名 (Volume group name)
- ボリュームプール名
- メディアの説明 (Media description)
- Vault ポリシー名
- Vault レポート名
- BMR 共有リソースツリー (SRT) 名
- トークン名
- ストレージライフサイクルポリシー (SLP) 名

NetBackup ユーザーの SORT について

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)

Veritas Services and Operations Readiness Tools について

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) は、Veritas エンタープライズ製品をサポートするスタンドアロンと Web ベースの強力なツールセットです。

NetBackup では、SORT によって、複数の UNIX/Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。このデータは、システムで NetBackup の最初のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを評価するのに役立ちます。

次の Web ページから SORT にアクセスします。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

SORT ページに移動すると、次のようにより多くの情報を利用可能です。

- インストールとアップグレードのチェックリスト
このツールを使うと、システムで NetBackup のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを確認するためのチェックリストを作成できます。このレポートには、指定した情報に固有のソフトウェアとハードウェアの互換性の情報がすべて含まれています。さらに、製品のインストールまたはアップグレードに関する手順とその他の参照先へのリンクも含まれています。
- Hotfix と EEB Release Auditor
このツールを使うと、インストールする予定のリリースに必要な Hotfix が含まれているかどうかを調べることができます。

- カスタムレポート
このツールを使うと、システムと Veritas エンタープライズ製品に関する推奨事項を取得できます。
- NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定
このツールを使用すると、今後 Veritas が新しい機能や改善された機能と置き換える項目に関する情報を入手できます。さらに、今後 Veritas が置き換えることなく廃止する項目に関する情報を入手することもできます。これらの項目のいくつかには NetBackup の特定の機能、サードパーティ製品の統合、Veritas 製品の統合、アプリケーション、データベースおよび OS のプラットフォームが含まれます。

SORT ツールのヘルプが利用可能です。SORT ホームページの右上隅にある[ヘルプ (Help)]をクリックします。次のオプションがあります。

- 実際の本のようにページをめくってヘルプの内容を閲覧する
- 索引でトピックを探す
- 検索オプションを使ってヘルプを検索する

NetBackup のインストール要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のインストール要件について](#)
- [NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新](#)
- [NetBackup 10.5 のバイナリサイズ](#)

NetBackup のインストール要件について

今回の NetBackup のリリースには、インストールに必要な最小システム要件と手順への変更が含まれている可能性があります。これらの変更は、Windows と UNIX の両方のプラットフォームの最小システム要件に影響します。『NetBackup リリースノート』のインストール指示に関する多くの情報は、利便性を考慮して提供されています。インストール指示について詳しくは、『NetBackup インストールガイド』および『NetBackup アップグレードガイド』に記載されています。

p.26 の「[NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)」を参照してください。

- NetBackup サーバーソフトウェアをアップグレードする前に、NetBackup カタログをバックアップして、カタログバックアップが正常に終了したことを確認する必要があります。
- NetBackup 10.5 にアップグレードする前に、NetBackup リレーショナルデータベースの 2 倍のサイズの空きディスク領域があることを確認します。つまり、プライマリサーバーのデフォルトインストールに対して、/usr/opensv/db/data (UNIX) または `<install_path>%Veritas%NetBackupDB\data` (Windows) のディレクトリを含むファイルシステムにそれだけの空き領域が必要です。これらのいずれかのディレクトリの一部のファイルの場所を変更する場合は、その場所にファイルのサイズ以上の空

き領域が必要です。代替の場所への NBDB データベースファイルの格納について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

メモ: この空きディスク領域の要件は、アップグレードを始める前に、カタログバックアップを正常に終了するためのベストプラクティスを実行していることを前提としています。

- プライマリサーバーとメディアサーバーでは、NetBackup を正常に実行するために、プロセス単位のファイル記述子の最小ソフト制限を 8000 にする必要があります。ファイル記述子の数が不十分な場合の影響の詳細については、Veritas のサポート Web サイトの次の記事を参照してください。
<http://www.veritas.com/docs/000013512>
- NetBackup のプライマリサーバーとメディアサーバーは、起動時および 24 時間ごとにサーバーのバージョン情報を交換します。この交換は自動的に行われます。アップグレード後の起動時に、アップグレードされたメディアサーバーは vmd サービスを使って自身のバージョン情報をサーバーリストに示されているすべてのサーバーにプッシュします。
- Veritas は、メディアサーバーのアップグレードの実行中は、プライマリサーバーのサービスを起動して利用可能な状態にしておくことをお勧めします。
- すべての圧縮ファイルは gzip を使用して圧縮されています。これらのファイルのインストールには gunzip と gzip が必要なので、NetBackup をインストールする前にコンピュータにこれらがインストールされていることを確認します。HP-UX を除くすべての UNIX プラットフォームでは、パイナリは /bin または /usr/bin に存在し、このディレクトリが root ユーザーの PATH 変数に含まれていると想定されています。HP-UX システムでは、gzip コマンドおよび gunzip コマンドは /usr/contrib/bin に存在すると想定されています。インストールスクリプトを実行すると、PATH 変数にこのディレクトリが追加されます。UNIX でインストールを正常に実行するには、これらのコマンドが存在する必要があります。

NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

NetBackup のサーバーおよびクライアントのインストールは、NetBackup のすべてのバージョンの互換性リストに一覧表示されているオペレーティングシステム (OS) の定義済みセットでのみサポートされます。ほとんどの OS ベンダーが、製品のパッチ、更新、およびサービスパック (SP) を提供しています。プラットフォームのテスト時には OS の最新の SP または更新レベルでテストすることが、NetBackup のクオリティエンジニアリングのベストプラクティスです。したがって、NetBackup はすべてのベンダー GA 更新 (n.1、n.2 など) または SPS (SP1、SP2 など) でサポートされます。ただし、既知の互換性の問題が特定の SP または更新された OS レベルに存在する場合、この情報は互換性リスト

で特定されます。このような互換性の問題が見られない場合、Veritas は、サーバーとクライアントに最新の OS 更新をインストールしてから NetBackup をインストールまたはアップグレードすることをお勧めします。

NetBackup 10.5 およびその他の NetBackup リリースに関する最新の必須 OS パッチ情報は、[Veritas SORT \(Services and Operational Readiness Tools\) Web サイト](#)および [NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)で確認できます。互換性リストには、最新のメジャーリリースラインでの最小の NetBackup バージョンをサポートするために必要な最小の OS レベルに関する情報が含まれます。場合によっては、NetBackup の新しいリリースが特定のベンダーによる OS 更新またはパッチを必要とすることがあります。

p.44 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

p.37 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup 10.5 のバイナリサイズ

次の表には、NetBackup 10.5 プライマリサーバー、メディアサーバー、およびサポートされているさまざまなオペレーティングシステム対応のクライアントソフトウェアに対する概算バイナリサイズが示されています。これらのバイナリサイズは、初回インストール後に製品が占有するディスク容量を示します。表にリストされているサイズの場合、1 MB は 1024 KB に相当します。

メモ: NetBackup 8.3 では、Java GUI および JRE パッケージは、ほとんどのクライアントとメディアサーバーで省略可能です。パッケージサイズは、Java GUI と JRE を使用して計算されています。

メモ: 表には、サポートされているオペレーティングシステムのみが表示されています。NetBackup が現在サポートしている最新のオペレーティングシステムのバージョンについては、[Services and Operations Readiness Tools \(SORT\) Web サイト](#)または [NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)を参照してください。

表 B-1 互換性のあるプラットフォームの NetBackup のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	64 ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
AIX	POWER	1831 MB	サポート終了	
Alma Linux		2025 MB		
Amazon Linux		2025 MB		

OS	CPU アーキテクチャ	64 ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
BC-Linux		2025 MB		
Canonical Ubuntu	x86-64	2025 MB		
CentOS	x86-64	2025 MB	7599 MB	
Debian GNU/Linux	x86-64	2025 MB		
Kylin Linux Advanced Server 10.0		2025 MB		
NeoKylin Linux Advanced Server		2025 MB		
Oracle Linux	x86-64	2025 MB	2025 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	POWER8	434 MB		
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64	1985 MB	7377 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	z/Architecture	1084 MB	サポート終了	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Rocky Linux クライアント		2025 MB		
Solaris	SPARC	1035 MB	サポート終了	
Solaris	x86-64	992 MB	サポート終了	
SUSE Linux Enterprise Server	POWER8	445 MB		
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64	1648 MB	6389 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	z/Architecture	1106 MB	サポート終了	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Windows	x86-64	760 MB	5415 MB	互換性のあるすべての Windows x64 プラットフォームが含まれます。



NetBackup の互換性の要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のバージョン間の互換性について](#)
- [NetBackup の互換性リストと情報について](#)
- [NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)

NetBackup のバージョン間の互換性について

プライマリサーバー、メディアサーバー、およびクライアントの間で、バージョンが異なる NetBackup を実行できます。この旧バージョンのサポートによって、NetBackup サーバーを 1 つずつアップグレードして、全体的なシステムパフォーマンスに与える影響を最小限に抑えることができます。

Veritas ではサーバーとクライアントの特定の組み合わせのみがサポートされています。バージョンが混在する環境では、特定のコンピュータが最新のバージョンである必要があります。具体的には、バージョンの順序を NetBackup Snapshot Manager コンピュータ、プライマリサーバー、メディアサーバー、クライアントのようにします。たとえば、10.2 NetBackup Snapshot Manager > 10.0 プライマリサーバー > 9.0 メディアサーバー > 8.3.0.1 クライアントというシナリオがサポートされます。

NetBackup バージョンはすべて 4 桁の長さです。NetBackup 10.0 リリースは 10.0.0.0 リリースです。同様に、NetBackup 9.1 リリースは NetBackup 9.1.0.0 リリースです。サポート目的では、4 番目の数字は無視されます。9.1 プライマリサーバーは 9.1.0.1 メディアサーバーをサポートします。サポートされない例は、9.1 プライマリサーバーと 10.0 メディアサーバーの組み合わせです。

NetBackup カタログはプライマリサーバー上に存在します。したがって、プライマリサーバーはカタログバックアップのクライアントであると見なされます。NetBackup 構成にメディ

アサーバーが含まれている場合は、プライマリサーバーと同じ NetBackup バージョンを使ってカタログバックアップを実行する必要があります。

NetBackup バージョン間の互換性について詳しくは、[Veritas SORT Web サイト](#)を参照してください。

Veritas は [EOSL](#) 情報をオンラインで確認することをお勧めします。

NetBackup の互換性リストと情報について

『NetBackup リリースノート』のドキュメントには、NetBackup のバージョン間で実施された大量の互換性の変更に関する記述が含まれています。ただし、プラットフォーム、周辺機器、ドライブ、ライブラリの最新の互換性情報は、NetBackup の Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトにあります。

p.37 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup では、SORT によって、インストールとアップグレードのチェックリストのレポートと、既存の複数の環境にわたりホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。さらに、ご使用の環境にインストールした Hotfix や EEB がどのリリースに含まれているかを特定できます。このデータを使って、システムで特定のリリースのインストールまたはアップグレードを行う準備ができていないか評価します。

NetBackup 互換性リスト

SORT に加えて、Veritas はお客様がすぐに NetBackup の最新の互換性情報を参照できるようにさまざまな互換性リストを提供しています。

[NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)

メモ: 相互に互換性がある NetBackup のバージョンについて詳しくは、ソフトウェア互換性リスト (SCL)、SCL 内の [NetBackup のバージョン間の互換性 (Compatibility Between NetBackup Versions)] の順に選択します。

NetBackup の End-of-Life のお知らせについて

Veritas は多種多様なシステム、プラットフォーム、オペレーティングシステム、CPU アーキテクチャ、データベース、アプリケーション、ハードウェアに対し、可能なかぎり優れたデータ保護を提供することに取り組んでおります。Veritas社は、今後も NetBackup システムのサポートを見直してまいります。これにより、製品の既存のバージョンの保守と、以下についての新しいサポートの導入とを適切なバランスで行っていくことができます。

- General Availability リリース
- 新しいソフトウェアおよびハードウェアの最新バージョン

■ 新しい NetBackup の機能

Veritas が新しい機能とシステムのサポートを絶え間なく追加していく一方で、NetBackup のサポートの中には改善、置換、削除が必要なものもあります。これらのサポート処理は、古い、またはあまり使われない機能に影響することがあります。影響を受ける機能には、ソフトウェア、OS、データベース、アプリケーション、ハードウェア、サードパーティ製品との統合に関するサポートが含まれることがあります。また、場合によっては製造元によるサポートが終了しているか、サポート期間終了間際の製品が含まれる場合もあります。

Veritas社は NetBackup のさまざまな機能のサポートに変更があった場合でもお客様に支障のないように詳細な通知を提供してサポートいたします。Veritas社は、NetBackup の次のリリースでサポートされない古い製品機能、システム、サードパーティ製のソフトウェア製品をリスト化していく予定です。Veritas 可能であれば、ベリタスによって、メジャーリリースの前に最低 6 カ月で可能なかぎり早くこれらのサポートリストを利用できるようにします。

SORT の利用

今後のプラットフォームおよび End-of-Life (EOL) 情報を含む機能サポートの詳細な通知は、Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) for NetBackup のホームページにあるウィジェットから入手できます。SORT for NetBackup のホームページにある[NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (Future Platform and Feature Plans)]ウィジェットは、次の場所から直接見つけることができます。

<https://sort.veritas.com/nbufutureplans>

NetBackup の End-of-Support-Life (EOSL) 情報は、次の場所から入手することもできます。

https://sort.veritas.com/eosl/show_matrix

p.37 の「Veritas Services and Operations Readiness Tools について」を参照してください。

プラットフォーム互換性の変更について

NetBackup 10.5 リリースには、さまざまなシステムのサポートにおける変更も実装されています。SORT の利用に加え、『NetBackup リリースノート』ドキュメントおよび NetBackup の互換性リストを確認してから、NetBackup ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする必要があります。

p.10 の「NetBackup の新しい拡張と変更について」を参照してください。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

他のNetBackup マニュアル および関連マニュアル

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の関連マニュアルについて](#)

NetBackup の関連マニュアルについて

Veritas は、NetBackup ソフトウェアに関連するさまざまなガイドと技術マニュアルをリリースしています。特に指定のないかぎり、NetBackup のマニュアルは「[NetBackup Documentation Landing Page](#)」から PDF 形式でダウンロードするか、HTML 形式で参照できます。

NetBackup が新たにリリースされるたびにすべてのマニュアルが公開されるわけではありません。マニュアルには、NetBackup 10.5 用が公開されていない他バージョンのドキュメントの参照が記載されている場合があります。このような場合は、参照可能な最新バージョンのマニュアルをご覧ください。

メモ: Veritas は、PDF リーダーソフトウェアのインストールおよび使用に関する責任を負いません。

UNIX に関するすべての内容は、特に指定しないかぎり、Linux プラットフォームにも適用されます。
